

風話鈴香

発行所
尼崎市小中島 1・1・1 8
社会福祉法人
阪神共同福祉会 園田苑
TEL06-6493-3731
発行責任者
理事長 中村 大蔵

私たちの 目指すもの

- 一、地域に開かれた施設
 - 二、入居者、家族、施設、地域のみんなで作る福祉を！
 - 三、老人と共に生きがいを見い出す生活を
- 社会福祉法人 阪神共同福祉会 園田苑

10月12日に園田苑は開設33周年を迎えました。当日はボランティアグループ「園」の坂本さん、後藤さんが書いて下さった幕と日頃お世話になっている皆様からのお花でお祝いしていただきました。台風、コロナ感染症対策で当日のお祝いは2年連続入居者のみで実施。今年は、延期となりました。10月1日より事務所前での面会を再開させていただいております。外の庭の花を眺め、おしゃべりされているのを見るとほっとします。しばらくクーラーが必要でしたが急に気温が下がりました。手洗い、マスクを継続し、入居者の皆さんは風邪予防の生姜湯で元気で過します。

コロナが流行り出し、行事も行うことが出来ず、緊急事態宣言が出る度に面会も制限させて頂く形が1年半も続いています。

いつも後悔しないように寄り添いたい、ご家族に出来るだけ来て頂きたいと思いついてきましたが、このような状況では外出も出来ず、面会も制限することとなり、こんな時期じゃなかったら…と思うことばかりで歯がゆい日々を送っております。入居者さんもお家族も同じ思いで1年半を過ごしてきたと思います。



苑庭にコスモスが満開

このような状況下で私たちに出来ることは何か考えていく必要があると感じます。

こっちは元気じゃってよ

一つほっこりしたお話を紹介させて頂きたい。職員よりコロナに詳しいKさん。

「お母さん（奥さん）を呼んでくれ。ワシがここにいるの知ってるのに何で来ないんや。」と亭主関白振りを発揮。電話で声だけでもと思い電話を掛けると…

「お母さんか、元気？こっちは元気にやってるよ。気をつけてな。」と。見せかけの亭主関白で本当は優しい旦那さんでした（笑）。

コロナが流行る前は奥さんが良く会いに来て下さっていたのですが急に会えなくなりストレスも溜まっていたと思います。声を聞くだけでなくとても穏やかになった姿を見て家族って本当に大切な存在だなと改めて実感しました。

コロナで会えないからで終わらせるのではなく、外出することはまだ出来ないけど…、行事をすることは出来ないけど…出来ることはたくさんあるはず。私たちに出来る最大限のことを行っていきたいと思います。

皆で美味しいものを一緒に

最近入職した職員もいますのでご家族が面会出来るようになった時に居室担当がわかるよう看板を作っています。職員が一生懸命作っていますので、中に入れるようになった際は是非ご覧ください。

あと、行事が出来るようになったら牛一頭分ぐらい注文し、入居者さん、ご家族、ボランティアさん、職員でワイワイ言いながら食べたいです。サーロインステーキが食べたいので、理事長に相談します。よろしくお願いします（笑）

先の見通しがつき辛い日が続きますが、安心して生活が出来る日が来ることを信じて、今後も頑張っていきたいと思っています。

（特養 ヘルパー主任 山崎 優花）

2月14日日曜日に行われた
特養のスイーツバイキングの様子です。
厨房手作りのスイーツに皆さん夢中でした。



面会も中止。外出も
ダメ。楽しみはおいしいものを食べる
こと！



来年の 5 月にはこの
のぼり見ながら、
コーヒーとケーキ食
べたいなあ。

コロナ下だからこそ

初心忘るべからず

理事長 中村大蔵

今年の園田苑開設記念祝賀会は再々延期となった。それでもこの日を忘れずに祝詞が届き花のプレゼントもたくさんあり、お祝に駆けつけてくれた人々もおられ大々感激した。だが、延期の理由を全てコロナの所為（せい）にしている自分自身がいる。

そんな時、園田苑が今日あるのは地域の御蔭だと心底（しんそこ）思っているかと自省する。そしてその度に、市の担当課長から言われた言葉を思い出す。

「園田苑の建設に際し、市に一本のクレーム電話もなかった。住民からの苦情で工事が一時たりともストップしなかった。これには脱帽です」と。

その当時は今と違って老人ホーム建設に周辺住民からの反対運動は付き物だった。しかも、殆どはそれを金銭で解決していた。

「施設栄えて地域萎（な）える」「きれいな施設オラが村の恥」との言葉がある。地域とのかかわりなく施設だけのことを考える。建物はなるほど立派、だが地域は旧態依然との意味である。

施設が出来ても、地域の福祉力は何も変わらなかったではないかと言われたいよう、常に初心忘るべからず、である。

当たり前だと思っていた生活が、当たり前のようにできない生活になってから1年半が経とうとしています。外出自粛・面会自粛など自粛一辺倒の世界になってしまいました。

そのような状況の中で、在宅の生活を支える**訪問介護**の支援も厳しい状況でした。

自宅での1対1の支援が多い中、私たちが感染源になり、感染拡大だけはしまいと、利用者にも協力を得ながら、ヘルパー一同、感染症対策に努めながらの支援になりました。

外出などを控えられ、下肢筋力の低下などの身体機能の低下や、人と関わる時間が少なくなることなどにより、精神的な不安を訴えられる方が増えてきています。

訪問介護は、身体的な介助や本人が出来ないことを手助けすることだけが支援ではなく、それに加えて、その方の精神的な支えになれるような存在であることが必要です。また、それは本人だけでなく、その在宅生活を支える家族に対しても同様だと思います。

今後も住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、家族・関係事業所などと連絡を密に取りながら、その人らしい生活を支えていきたいと思っています。(訪問介護 管理者 清水秀昭)

新型コロナウイルスが世界中を駆け巡って1年半が経ち、何回目かの緊急事態宣言はようやく解除されましたが、まだまだ予断を許さない状況が続いています。

実際、**居宅**でもご利用者様2名がコロナでご逝去されました。今まで当たり前だと思っていた日常生活が一変し、訪問系サービスの利用自粛や外出制限等、利用者の方々の在宅時間が長くなることで、楽しみや張り合いが徐々に奪われ意欲低下や認知症の進行等、また違う意味での怖さを目の当たりにしている毎日です。

私たち**ケアマネジャー**の仕事は、一人ひとりが持つ生き方を左右する価値観や人生のゴールをしっかりと把握することが最重要課題です。

人はそれぞれ人生で絶対にこれだけは譲れないというものがあります。同じ問題にぶつかった際にもその問題をどのように切り抜けていきたいかは人それぞれ異なります。私たちケアマネジャーは、それぞれの人生のそれぞれの思いに寄り添い、これからも住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らし続けられるよう一緒に考え、お手伝いさせていただきます。

「木を見て森を見ず」ということわざがありますが、ときには一步身を引いて全体を眺め、広い視野を持ち、地域の方々とみんなで作る福祉を目指し、安心を届けたいと思っていますので今後ともよろしくお願いいたします。(居宅介護支援事業 管理者 石田 周子)



みなさんこんにちは。「**園田南**」**地域包括支援センター**管理者の奥島です。新型コロナの感染が始まってから、もう1年半にもなりますね。

私自身はワクチン接種で熱が出て仕事を休んだ程度でしたが、みなさんはいかがだったでしょうか。

包括支援センターでは、新型コロナ感染者に直接対応したという事は今のところありません。

ただ、訪問先のお年寄りに熱があって、防護服を着て対応する、また、対応した後からお年寄りに熱がある事がわかり、念のため職員に休んでもらう等の事例はありました。包括支援センターには緊急の相談も多いため防護服やフェイスガードを常備するなど、対策も立てています。

包括支援センターの重要な役割として、地域の百才体操、お年寄りのサロンを支援する事がありますが、新型コロナで軒並み休みになってしまったため支援ができなくなってしまったのは残念でした。

そのため地域の回覧板に包括支援センターのチラシをはさんでもらうようにしました。

最近では緊急事態宣言も解除されまた地域に出られるようになりつつあり、一安心しています。

今後は、コロナで閉じこもりがちになってしまったお年寄りのみなさんに、また元気にお出かけして(もちろん感染予防をして)体操したり、サロンでお話できるように支援していけたらと思います

みなさん、今後とも「園田南」地域包括支援センターをよろしくお願いいたします。(管理者 主任介護支援専門員 奥島 崇)



コロナ禍の中、**認知症対応型デイサービス**の運営にご協力いただきありがとうございます。私たちは12名定員の少人数のサービスではありますが、極力三密にならないように工夫しております。手指消毒、うがいなど標準的な感染対策の徹底を行っております。また、ご家族の協力もあり、利用者の皆さんや職員を含め感染者が出ていないことにほっと胸をなでおろしているところです。

緊急事態宣言が繰り返される中、外出等々の屋外での企画・行事が中止となり、人の出入りも制限される中で何かと利用者の皆さんや職員を支えて下さったボランティアの皆さんの存在の大きさを再確認しています。継続した「人との関わり」が重要でもある認知症の皆さんにとってもその存在が大きいのではないのでしょうか。

このコロナ禍の約1年半、何か利用者の皆さんに楽しんでもらおうと近隣のお店にご協力を頂き、好きなだけおいしいものを食べてもらおうと「ドーナツバイキング」や「スイーツバイキング」を職員の提案により企画しました。ドーナツバイキングでは、昼食後ではありましたがあっという間にドーナツを1個「ペロッ」と召し上げられるほどの食欲。甘いものは別腹であることを実感しました。この企画では、受付でお金を支払うことと事前に食べたいものを聞いていましたが、その時の気分で食べたいものを選んで頂きたいという思いもあり、実際に観て食べるものや飲むものを選んで頂くことにこだわりました。

私たちが当然のように行っている日常の行為が、利用者の皆さんにとっては難しい場合や家族のサポートがあり行為そのものの機会が少なくなっていることが少なくありません。私はデイサービスの利用を通して、今まで日常の生活で培ってきた行為が継続できるように支援していきたいと思っています。少しでも楽しんで頂け、継続してご利用いただけるように工夫していきたいと考えていますので、これまで同様にご協力をお願いいたします。(認知症対応型通所介護 管理者 大上 茂利)

善法寺で縁を紡いで六年半

2021年10月31日をもってSADROOMの事業が閉鎖されます。

SADROOMの2事業、デイサービスセンターZenと小規模多機能型居宅介護 園田苑は、2015年3月にZenが4月に小規模多機能型居宅介護 園田苑がオープンしました。

園田苑のデイサービスは、Zen以外に2カ所ありますが、小規模多機能型居宅介護は、園田苑が初めて行う事業だったため前施設長が「皆の夢を乗せて」と言われていたのを思い出します。

Zenの名前も善法寺町の善と縁をかけてZen（縁）とされたようです。



善法寺保育園の園児と交流（お正月）
季節ごとにハロウィン、節分など一緒に楽しみました。

今まで園田苑は、園田地区、小中島での事業を展開していましたが、それに加え小田地区である善法寺町での事業展開を行うことができ喜びも倍増されていたのではないかと思います。

担当者は通常の業務を行いながら開設準備を行っていましたので大変でしたが、いざ開設となると色々な方の協力や準備があり、未知の世界へ万感の思いがありました。

実際、事業が始まると利用者さんにご利用いただけるようにパンフレットを持ってケアマネジャーさんの元に必死に売り込みに行きました。

Zenに関しては、オープンから9ヵ月後には、定員である20名に到達することができ、当時の職員で喜び合ったのを覚えています。

小規模多機能型居宅介護に関しては、登録者数をいっぱいにすることは、最後までできませんでしたが、手厚い介護で利用者さんの生活を支えてきました。「すべての人の命を大切に、地域福祉の担い手となる」というのが阪神共同福祉会の法人理念です。



法人理念の命という言葉を生活という言葉に置き換え今まで利用者さんの生活を支えてきました。

今回、事業所を閉鎖することにより、利用者さんの今までの生活を一変させてしまうこと、大変申し訳なく思っています。

「最後までZenがいい、こんなにいいデイサービスは他にはない。私は、最後までZenに行く」と言われ、9月30日まで来て下さった利用者さん、今までの間ご利用してくださった利用者さん、本当にありがとうございました。

Zenは、利用者さんが居心地よく落ち着ける場所であって欲しいとこれまでやってきました。

利用者さんからたくさんさんの惜しむ声を頂けて開設して本当に良かったと思います。

最後に私のお気に入りのZen利用者、Zen職員で作上げた「のぼり旗」を掲載させていただきます。

（デイサービスセンターZen管理者 西井明夫）



地域の皆様に支えられ

自己実現の場であり続けた

今から約6年半前、期待と夢を背負って開設された小規模多機能型居宅介護園田苑。皆様のご支援やご期待に応えることができないまま、2021年4月4日付で休止。その後9月30日をもってその幕を閉じることとなりました。

2月半ばのその突然の知らせに小規模が揺れるなか、千秋楽へのカウントダウンは止むことはありません。決定した以上、それからは皆がひたすら前を見て走り始めました。



できることは一緒に。
掃除もたくさんお願いしました。
「なんでも言うてね～手伝うよ」

決められた期間内での新サービススタートに向けての調整においては、ご利用者・ご家族の皆様やサービス関係の皆様には大変なご負担をおかけしましたことを心からお詫び申し上げます。気持ちの整理がつかないまま根気強くご協力頂いたことに加えてただ感謝致しております。

コロナ禍にあつては、小規模の醍醐味である地域行事への参加などは、軒並み自粛せざるを得ない日々ではありましたが、老人会、円融寺、ふれあい食事会、善法寺保育園を始め、編み物ボランティアの方々など、常になじみのある地域の方達にも支えられてきました。

縁あつて同じ時を過ごすことができたこと。それは、当たり前の日常のようで当たり前でなかったかけがえのない日々。介護の現場は、する側もされる

側も自己実現できる場です。

新生活のスタートを切って、約半年が経った今、新たなご縁によって皆様の毎日が円く満たされ始めていることを願ってやみません。共に過ごしてきた日々を慈しみながら、心躍る、心穏やかな毎日にしていきましょう。（特養ヘルパー 脇田 香）

デイサービスセンターZen 小規模多機能型居宅介護 園田苑の取り組み

2015年	号外	5月	10月	11月
2016年	3月	4月	5月	9月
2017年	1月	9月	11月	
2018年	5月	9月	6月	

風鈴電話バックナンバーでご覧いただけます
園田苑ホームページへGO！

職員が声掛けしなくても
時間になれば乾燥機から
洗濯物を出して持ってきます。
「待ってたで～」



「洗濯たたみはまかせて！」
利用者さんが率先してバス
タオルを畳んでくださいました。



より魅力のある

デイサービスへ進化

デイサービスセンター園田苑は、登録利用者数70名。1日あたり、約28名のご利用者と8名の職員が、賑やかな雰囲気の中、笑い声のあふれる毎日を送っています。

コロナウイルスが流行し、約1年8か月。日々、感染症対策に細心の注意を払いながらも、「楽しく、元気に、気持ちよく。」を目標に、まず、施設内での時間を飽きることなく、より楽しく過ごして頂くためには、何ができるのか？を常に考えながら、ご利用者との関わりを積み重ねています。

今年の4月以降、小規模多機能型居宅介護・デイサービスセンターZenの事業が終了することを受け、利用変更されたご利用者が14名。新規のご利用者が6名。新たに4名の職員も配属され、デイサービスの雰囲気も大きく変化する中、新たな気持ちで歩みを進めています。



「たくさんの利用者に参加して頂きながら、一つの作品を作り上げる」をコンセプトにして、2ヵ月に1回を目安に、壁に飾る作品を作っています。

今まで積み上げてきた多くの知恵や工夫を大切にしながらも、新たな職員から得られる見方や考え方、方法を、柔軟に取り入れ、より魅力のあるデイサービスへと進化しできるように、職員一丸となり、努力していきます。また、コロナが落ち着いた後のデイサービスの在り方もしっかりと想像し、地域の

皆様の力もお借りしながら、「助け・助けられる」関係作りにも、新たな気持ちで臨みたいと思っています。
(デイサービス管理者 関口 義信)

学び、得たものを

事業運営に生かす

Zen開設時のコンセプトを振り返ると、令和3年度の介護保険制度の改定で国が介護保険事業所に求めたこと、進まなければならない方向性がすでに実施されていたことに気づきます。

- ①ご自宅での動作を重視（立つ歩く）
- ②食事はセルフサービス（自立支援）
- ③入浴は自宅で入浴することを想定



今後は、在宅サービス、施設サービスともに経営を安定させ、運営は自立支援、認知症ケアの向上、多職種地域連携、感染症及び災害発生時の事業継続の視点で取り組むことが求められています。

向かう2025年。地域福祉の担い手である人材育成とすべての人の命を大切にする地域課題の解決に園田苑が果たす役割は大きいと考えます。

また、この6年間で経験した自然災害発生後、ライフライン復旧までの対応や新型コロナウイルス感染症対応において、日々の感染症対策や緊急時の対応の経験、反省点を事業運営に生かします。

現在も、感染症対策で施設は地域に開かれたとは言えない状況です。しかし、それが当たり前と思わず、何かの形で園田苑を発信し続け、利用者、家族、地域、職員皆でつくる福祉を実践していきます。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。(施設長 河合 恵子)



グループハウス尼崎

創立23周年を

迎えました

待ちに待った周年記念だったのですが、コロナが終息せず今年も中止になりました。が、理事長のご協力により内々でしたが、お寿司にオードブル、サンドイッチにお酒など豪華な食事をさせて頂きました。

入居者のみなさまから「美味しかった」「お腹いっぱいになった」と用意していた料理がほぼ完食して、すごく喜んで頂きました。入居者の半分以上が正式な周年記念を知らず、来年こそは、24周年記念が行われますように願っています。



記念行事は中止でしたが、日頃お世話になっている地域のみなさまにグループハウスが誇る女性陣による手作り赤飯幕の内を手紙を添えて配らせて頂きました。

地域のみなさまとは、これからも協力しながら良い関係を作っていきたいと思っています。

(グループハウス主任 谷井 利彦)

職員募集

見学対応いたします！
① 正規介護職員
地域包括支援センター
② 社会福祉士
③ 主任介護支援専門員
(正規、常勤的非常勤)
条件等詳細は
園田苑ホームページ

法人理念

阪神共同福祉会は
すべての人の命を大切にし
地域福祉の担い手となる

編集後記

ラジオで聞いて初めて知った話。イチヨウの木にオスとメスがあって、銀杏の実がなる木がメスで、苗を植える段階では雌雄の見分けは難しいと。そういえば考えたことなかったけど、知らないことってたくさんあるなと思った秋の帰り道。
(きりん)

最近、飼い猫に座る場所や居場所をとられる 飼い主と成り果てています。
(だるま大使)

最近、当たり前だったことが、当たり前でなかったと気づく日々。いつもと同じは幸せなことかも。
(ものぐさガエル)

事務所のカウンターにある水槽を眺めていると同じ種類の魚でも個性があることに気づく。私が水槽に居たらどんなふうに泳いでいるだろうか。想像してみると楽しいが、囲われた世界の中で幸せなのか考えてしまう。群れになって泳ぐのもいいけれど、好きな場所でのんびりしていたい。タニシのように水槽の壁に張り付いて苔を食べ水槽の環境を整えるのもいいかもしれない。
(きんたろう)